



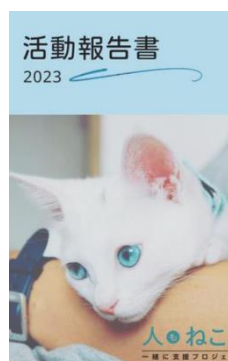
仲間が増えて、攻めの姿勢へ

人もねこも一緒に支援プロジェクトでは、生活困窮世帯の飼い猫に対する支援活動（ほぼ多頭飼育崩壊への介入）に取り組んではや7年になりました。細々とした受け身的な活動（来た相談には全力対応するけれど、積極的に集めに行かないスタイル。笑）から、心強いメンバーが増え、もっと積極的に仕掛ける1年にできるんじゃないか、というモードに入ってきました（大きな変化）。

まず、着手したのが寄付集めです。人を巻き込んで攻めた活動をするためには、資金が必要です。そこで、最若手メンバーに「2023年活動報告書」の作成と「寄付サイト」の立ち上げをお願いしました。

とっても素敵な活動報告書と寄付サイトを作ってくれたので、ぜひご覧ください！

そしてあわよくばマンスリーサポーターに！笑



猫の多頭崩壊予防的支援体制のモデル構築を目指す

今年は、人もねこも一緒に支援プロジェクトでも、自分たちがイメージする理想的な支援の形を実践してみることにしました。具体的には、「今の時点では問題のない生活困窮世帯への猫の不妊手術支援」の実施です。支援内容には、医療費支援＋捕獲送迎支援が含まれます。JAC 動物環境保護財団の助成を受けることができ、不妊手術 100 匹分の予算を確保することができました！（強力な仲間が申請書を作成してくれたおかげで。泣）



公益財団法人
JAC環境動物保護財団
JAC Environmental & Animal
Protection Foundation

【目的】

多頭崩壊を**予防的**に防ぐための支援方法を作り上げる為の、検証実験をする。

【具体的には】

今の時点では問題の無い生活困窮世帯への不妊手術支援（医療費＋**捕獲送迎**）

医療費支援であれば、よくある助成だと思うのですが、**捕獲送迎**も込みになりました。なぜかというと、多頭飼育崩壊に陥るリスクの高い飼い主さんは、自身で動物病院へ連れて行く力が、様々な要因によりなくなっている状態にあると推測されるからです。さらに、人もねこも一緒に支援プロジェクトの特徴として、単発で縁を切るのではなく、細く長く支援家庭と繋がり続ける事を大切にしている活動スタイルなので、お金を出すだけじゃなく、家庭訪問をして、飼い主とコミュニケーションを取れるような内容にしました。

猫の不妊手術無料 キャンペーン実施中!

人もねこも一緒に支援プロジェクトでは、猫と安心して生活をおくりたいという気持ちを応援しています!

無償で支援しています!

不妊手術支援 (送迎含む)

フード支援

ノミの駆除

手術支援の流れ

人もねこも一緒に支援プロジェクトに問い合わせ

状況のヒアリング・支援日決定

手術日の当日午前中に猫さんをお迎え

動物病院にて手術

退院夕方～夜にご自宅にお届け

猫の不妊手術のメリットは多いです!

① おしっこの臭いやマーキングも激減!

② 発情期の鳴き声も無くなる!

③ 病気の予防にもなる!

④ 計画外の繁殖も防げる! ⚠️1年後に20匹、2年後に80匹に増えることも!

利用条件

生活状況: 適正に飼うための費用捻出が困難なご家庭が対象です。ご利用にあたってはヒアリングさせていただきます。

頭数: 1匹からOK (先着100匹まで) ※飼い猫に限ります。

エリア: 関西圏内 (主に京都市・大阪市・その他エリアはお問い合わせください)

注意事項: 引取りは行っていません。

人もねこも
一緒に支援プロジェクト

LINEで気軽に相談が可能です

電話相談 ▶ 050-1808-6766

当キャンペーンは、猫の多頭崩壊予防的支援体制のモデル構築を目指す取り組みとして、[JAC環境動物保護財団2024年]の助成を受けています。

人もねこも 一緒に支援プロジェクト

とは?

ペットを飼育している、支援が必要な個人、または家族に対し、ペットと人の切り離しを行わずに支援を行うプロジェクトです!

人への配慮

動物への配慮

自立支援

適正飼育支援

私たちがめざすこと

人が愛情を持っているペットを支援することは、人の生活を支えるヒューマンサービスであるという理念のもと、人と動物が安心して暮らせる社会をめざします。動物も命あるものであるということを理解し、安易な殺処分を反対します。

個人の方、行政の方、どなたでも

LINE、電話、メール、使いやすい方法にてお問い合わせください。

LINE

050-1808-6766

hitonekokea@gmail.com

人もねこも
一緒に支援プロジェクト

大阪府大阪市北区南2丁目11番1号
ハイネスビル202Fエリアン内

ホームページ

2025年送迎組合費お断り

チラシもいい感じにできました!

【狙い】

この実証実験をする狙いとしては、これまでみえていなかったコストとニーズの可視化して、行政に今後の政策を考えるうえでの参考にしてもらうことです。本来、生活困窮世帯への支援制度は行政サービスとして制度化されるべきだと思っています。ただ、いくら理屈上は理にかなっているように見えても、落とし穴や想定できていない要因があるかも

143

しれません。そこで、助成金を活用し、人もねこも一緒に支援プロジェクトが主体となり1年間、支援制度を運用してみて、生じた問題とその対応にかかる経費をより具体的に可視化させたいと思います。特に、ボランティアの善意と自腹頼みになってしまっている捕獲送迎費を可視化したいと思っています。安定して提供できる支援体制を作るのであれば、肝心の捕獲送迎という猫に係わる部分がボランティアさんの善意頼みでは、不安定すぎますし、ボランティアの負担が大きすぎます。この問題意識からJACの助成金申請に「捕獲送迎の外注費」も入れたのですが、ここでも「捕獲送迎はボランティアが担っているのが一般的なので、助成金額からは除外します」と却下されてしまいました。多頭飼育崩壊のお家の猫の捕獲と病院送迎はめちゃくちゃ大変で、技術の要る、時には危険も伴う業務です。これをボランティアが無償でやるのが当たり前だという一般常識には一石を投じたいと思います。

というわけで長くなりましたが、1年を通して、個別の手術支援にかかった時間を元に、人件費を計算し、猫の送迎などを市民ボランティアや民間業者へ業務委託を検討する場合の委託費の参考値を提示していきたいと思います！

【展望】

今のイメージとしては、まず動物愛護担当の部署が生活困窮世帯への手術支援事業の予算化（医療費＋捕獲送迎の業務委託費）をする。そして、①福祉部署へ多頭飼育崩壊についての研修（情報提供）の実施をおこなう。②知識を持ったケースワーカーさんなど多頭飼育崩壊に陥るリスクの高い方と直接つながる福祉部署の職員さんが、飼い主さんに早い段階で手術を促す。③飼い主さんが手術支援を受けたい意志表示をすれば、動物担当部署に連絡。④行政から業務委託を“適正価格で”受けている地元団体や、ねこから目線。のような民間業者へ支援の実働指示を行う。⑤業務委託を受けている団体が飼い主宅へ訪問し手術の為に捕獲送迎を支援し、完了報告を行政の動物担当へ行う。

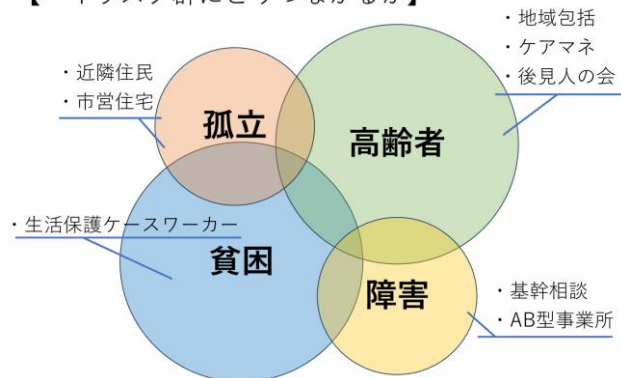


こんなイメージのものを行政の中に作ってほしいな。という図。

予防にこそ“多機関連携”

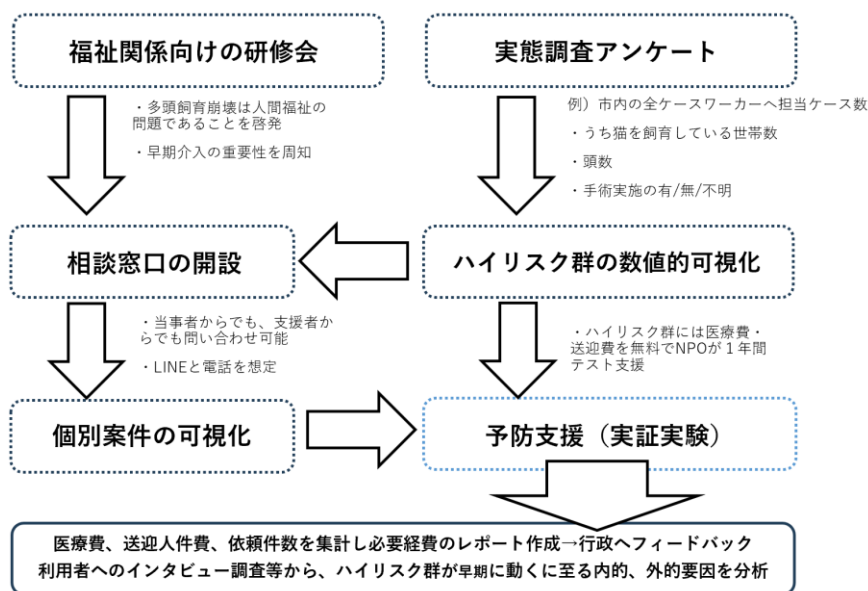
いくらお金があっても利用してもらえなければ意味がありません。どうやって、多頭飼育崩壊に陥るリスクの高い飼い主さんに、この支援事業を届けるかが重要です。

【ハイリスク群にどうつながるか】



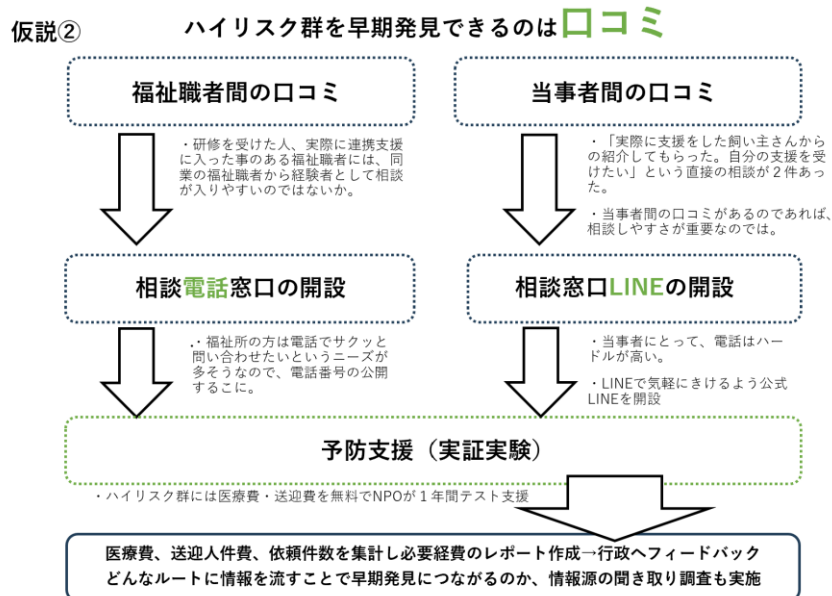
まず、考えやすい部分でいうと、福祉関係者の方に支援制度の情報を届けまくって、飼い主さんに伝えてもらうという流れです。ただ、いくら手術が無料になるという情報だけを届けても、なぜ手術が必要なのか、放置するとどんなリスクがあるのかを合わせて伝えていかなければいけません。そこで、今年も勉強会を積極的に実施していきたいと思っています。

仮説① ハイリスク群を早期発見できるのは福祉関係職員



一方で、口コミの力は侮れないなと思っています。実際、一度一緒に連携支援をしてくださった福祉職員さんや、飼い主さんからの紹介という形で、早い段階の相談が入るケースも多いからです。なので、相談のしやすさを大切に、「相談電話窓口の開設」、「相談窓口

LINE の開設」をしてみました。



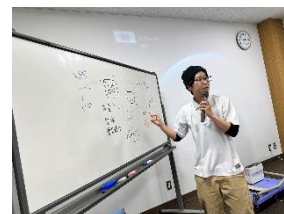
多頭飼育崩壊対策は、動物愛護と社会福祉の多機関連携が必要だと言われ続けています。そしてそれば、問題が発生してからではなく、予防にこそ多機関連携を大切にしておくことが必要だと思います。また、いつかのマガジンで、結果報告させていただきます。早めに結果が知りたい方は、ぜひマンスリーサポーターに（しつこい）笑。

研修依頼・イベント共催依頼ガンガン受けます

自分の職場や地域でも多頭飼育崩壊について学んでみたい。という方はお気軽にお問い合わせください。講演内容のラインナップとしては

① 猫の多頭飼育崩壊～背景の支援～ 講師：小池（本業：猫の便利屋）

猫の多頭飼育崩壊にはどういった背景分類があり、どのように介入しているのか、実際の現場活動をベースに理論と方法をお話させていただきます。時間がある場合は、事例検討のワークショップも盛り上がります。



② 多頭飼育対策ガイドラインを読み解く 講師：間嶋（社会福祉士・精神保健福祉士）

③ 崩壊その“前”にできることを考えてみましょう 講師：中村（社会福祉士）

環境省発行の多頭飼育対策ガイドラインは、とても必読書ではあるものの、めちゃくちゃ長いので挫折する人が続出しています。そこで、動物愛護業界と社会福祉業界の

双方に立脚し、猫を切り口に必要資源とつなげていく NSW（ネコソーシャルワーカー）として活躍する、社会福祉士の間嶋と中村が講師を務め、難しいガイドラインを噛み砕いて解説していきます。前半後半の2本立て研修にすることがお勧めです。こちらも、後半はグループワークがセットになっており、盛り上がります。



④ 猫と福祉の交流会&勉強会 共催

福祉系の方も動物愛護系の方も一同に会して相互理解を深める会です。

前半：10分程度の事例発表を4～10名様々な立場の人が実施 40～120分

後半：座談会 30～60分

とっても盛り上がる勉強会になります。地元のボランティアさんと福祉との架け橋を作りたい！と考える方のサポートをします！



⑤ 猫に優しい室内捕獲講座～多頭飼育に対応するために～ 講師：小池（ねこから目線。）

これは実際に、多頭飼育の支援を実施していこうとしている行政からの依頼を受けて、動物担当の職員さん向けに実施したセミナーです。室内で逃げまどう猫さんになるべく、怖がらせず、短時間で全頭捕獲する為の方法や道具を実際の動画や現物を交えながらレクチャーしていきます。とっても良い反響でした。

講師料はできれば拘束時間に合わせて1～3万円ほどいただきたいのが本音ですが、「交通費しかでないんです。でも熱い気持ちがあるんです！」と言われれば、たいがい行きますので、気軽にお声がけください。

人もねこも一緒に支援プロジェクトのサポートはこちら▶



おわり



小池英梨子

ねこから目線。～保護猫とノラ猫専門のお手伝い屋さん～ 代表

NPO 法人 FLC 安心とつながりのコミュニティづくりネットワーク

「人もねこも一緒に支援プロジェクト」 プロジェクト代表

ご意見・感想・お問い合わせ：e.kosame12@gmail.com